

手術説明 同意書

おひさま耳鼻咽喉科 五十嵐良和

病名 慢性副鼻腔炎
手術名 内視鏡下副鼻腔手術
手術予定日 年 月 日
麻酔方法 表面麻酔と局所麻酔

手術の目的と方法

鼻副鼻腔の病変を内視鏡で観察しながら処置します

術後の経過予想

術前術中に鎮痛剤、化膿止めの抗生剤を点滴いたします。

術後、痛み止めと化膿止めの内服薬を処方いたします。

出血がなく、意識がはっきりしていることを確認して帰宅していただきます。

手術翌日、再診をお願いします。

止血目的のガーゼ鼻内に留置させていただきます。

週明けにガーゼを抜去いたしますが、

鼻内の状態にあわせて随時ガーゼを交換留置させていただきます。

手術の危険性と合併症について

多少の出血と鼻やのどの痛みがあるかもしれません。

術後1週間は出血しやすいので、過激な運動や多量の飲酒をさけていただくことが望ましいでしょう。

通常発生しないが、起こりうる重大な合併症

眼の障害：視力障害、眼運動障害

脳の障害：髄液漏、髄膜炎、脳炎

麻酔のトラブルなど

以上、重大な障害を起こさぬよう十分注意して慎重に手術いたします。

もし、上記及び他の合併症を生じた時は、早期に適切に対処する努力をいたします。

医師の説明に対し十分ご理解いただけましたら、以下に署名をお願いいたします。

年 月 日

お名前 ()

内視鏡による日帰り鼻副鼻腔手術をうけられる患者さまへ

おひさま耳鼻咽喉科 五十嵐良和

--- 内視鏡による鼻副鼻腔手術は ---

顔の表面や唇の裏に切開を加えず、鼻の穴に内視鏡を挿入しTVモニターを見ながら鼻や副鼻腔の手術操作をおこないます。

切除範囲は、病気を改善させるための最低限の部位にとどめます。

鼻中隔矯正、（粘膜下）下鼻甲介切除術も内視鏡下におこなうことができます。

鼻のそばにある危険部位（眼や脳）を傷つけないよう、安全を確認しながら慎重に手術をおこないます。

--- 麻酔や投薬について ---

手術の60分以上前から、鼻内に麻酔薬と止血剤を浸したガーゼを留置します。

点滴ルートを確保し、抗生剤、鎮痛剤を点滴させていただきます。

状況に応じて脳の緊張を抑えるクスリや、血圧を下げるクスリを使用いたします。

--- 手術時間の見込み ---

副鼻腔手術 片側20－30分、両側で40－60分

鼻中隔湾曲矯正術 20－30分

（粘膜下）下甲介切除 片側10－15分

--- 手術後の経過 ---

鼻内に鎮痛剤、止血剤、抗生剤を塗布したガーゼを留置します。

1時間ほどベッド上で安静にさせていただき、出血がなく意識がしっかりしていることを確認したのち帰宅していただきます。痛み止めと化膿止めの内服薬を処方いたします。

手術当日は出血しやすいため、運動や入浴を控えてください。

手術翌日、再診をお願いします。

ガーゼ留置中はガーゼにしみこんだ薬による鼻やのどの違和感が生じます。

また、口呼吸となるため、のどの渇きや痛みを少々生じます。

ガーゼは週明けに抜去しますが、ガーゼを抜いた後も鼻内の状態が不安定な間、適宜ガーゼや止血の綿を留置させていただきます。

術後しばらくの間、汚れがたまりやすいため、適宜通院清掃させてください。

内服薬や点鼻薬は、1－3ヶ月を目安に服用していただきます。

ポリープのある方は特に術後再発しやすいため、定期診察をお願いします。